

生態系サービスの持続的利用を目指した 農林水産業由来カーボンクレジットの高付加価値化

パネルディスカッション資料

2024年3月26日
釜石地方森林組合
高橋 幸男 様

■ 釜石地方森林組合の概要

名 称

釜石地方森林組合

設 立

昭和 60 年 2 月 8 日
釜石市森林組合・大槌町森林組合合併

組合員数

1, 615 名

出 資 金

97,252 千円

役 職 員

常勤理事 2 名
(理事兼参事 1 名)

非常勤理事 13 名
監 事 3 名

内業職員 7 名
外業職員 12 名
嘱託職員 1 名

震災後 19 名
内 1名神奈川県からの 1ターン
独立職員 (会社組織 4 名)

■ 東日本大震災津波被害



(震災前)



(震災後)



- ・組合長を含む5名もの命を奪われる。事務所全壊(未曾有の大被害)
- ・役職員13名を含む多数の組合員が被災し、避難所等で不自由な生活を余儀なくされた。

復旧は無理・合併しか？

■ 林業経営

収益

・森林 1haあたりの収支見込額

収入	立木代金 3,600千円(400m ³ /ha) 補助金 2,000千円	合計 5,600千円
支出	地拵 400千円 植付 600千円 下刈 600千円(5年間) 除伐 150千円(1回) 保育間伐 300千円(2回) 間伐 1,260千円(2回) (200m ³ /ha) 主伐 1,120千円(200m ³ /ha)	合計 4,430千円

50~60年手をかけても
収入 5,600千円 - 支出 4,430千円
手元に残るお金が 1,170千円

＜参考＞森林整備サイクルのイメージ

■ 森林整備のイメージ



- 立木代金と補助金収入で、ぎりぎり利益を確保
- 造林から下刈までの初期(最初の5年間)コストが全体の約3割

■ 助成金を活用した森林経営の確立（バイオマス基金及び環境助成金の創出）

① 発電事業(IPP)

二酸化炭素を吸収した木材を燃やすことは
二酸化炭素排出量を抑える。

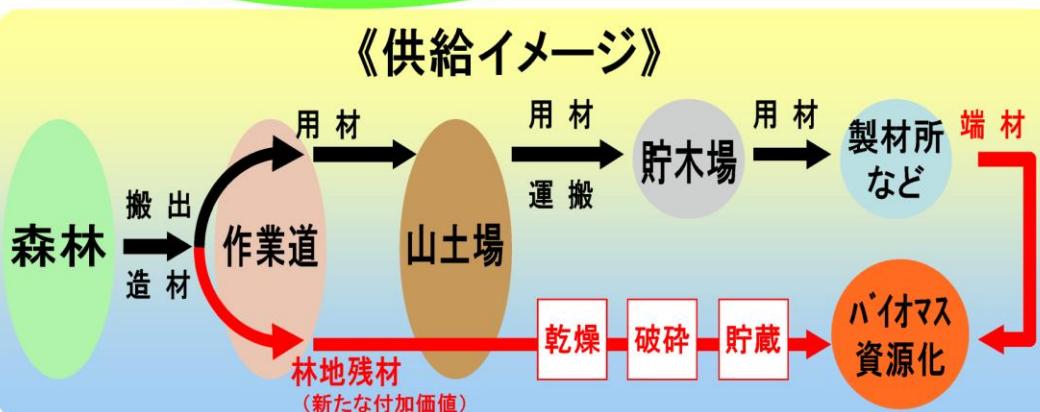
林地残材の活用について

緑のシステム創造事業によって
施業方法が改変されると

林内に放置されてきた
林地残材が収集可能に



供給



② J-Ver&フォレストック認定制度

森林の資産価値のみならず環境資産としての
価値向上

釜石港に繋がる甲子川流域を中心に

釜石・平田、甲子地区の施業団地を申請

平成22年12月に認定分

同意所有者数 38名

同意森林面積 197.88ha

クレジット量 4,265 t-CO2 (平成26年に全量販売済み)

(内バッファー分 127 t-CO2)

森林整備事業(新植・間伐・作業路開設)

資産価値のみならず森林を所有することで地域森林環境保全としての見える化

■ 森林業が果たす公益的機能向上への理解醸成



@SANU/Photo: 馮 意欣 提供



@SANU/Photo: 馮 意欣 提供

株式会社 SANU & 関係企業（35名）
カラマツ 739本、コナラ314本
約0.52haの植樹を完成

- 事業運営に関わり発生したCO₂を自らが森林整備活動を通じて吸収し、「カーボン・ネガティブ」と「地方農山村の環境・経済・社会に貢献」（SDGsの実現）
- 次年度以降も下刈作業を含め森林管理支援とCO₂の吸収量拡大に支援を計画
- 安全対策を確保後キャビン利用者へ森林支援活動を醸成
- 「人間が人間らしく生活するため日常の生活から離れ、自分を見つめ直す空間の提供」

グリーン社会の構築に向けたロールモデルになると期待している

① 森林体験・視察、② 林業担い手確保人材育成事業の活用

地域内外の企業、個人、小・中・高校生等に来て頂き地球温暖化防止について考えて頂き、気候変動が他人事では無いことを理解していただく。

参考：コロナ禍前 訪問者 約600人/年 令和5年度 訪問者 約200人/年

企業研修等(BtoB)



環境教育活動



森林体験による植林



■ 今後の予定

① 森林体験・視察、② 林業担い手確保人材育成事業の活用

地域内外の企業、個人、小・中・高校生等に来て頂き**地球温暖化防止**について考えて頂き、
気候変動が**他人事では無い**ことを理解していただく。
産業構造への支援（森林環境を守ることの責任）

参考：コロナ禍前 訪問者 約600人/年 令和5年度 訪問者 約200人/年

③ゼロカーボンシティ宣言（地域貢献）

管内自治体及び管内企業への貢献

④購入者へ明確なメリット

税制、融資枠、投資枠等及び貢献度の個別数値化証明書の発行、衛星写真を活用した管理方法確立